資料収集と利用者の要求

医学図書館 11(4): 145~148, 1964

特集(I): 資料の収集

八 尋 重 久*

図書館は研究者に対しては奉仕機関であり、学生には教育機関である。この目的にそって十分な図書館機能を発揮するには、学術研究の方向、および教育課程を常に認識して、計画的に広い視野から文献資料の収集をしなければならない。

I. リザーブブック

科学研究の飛躍的な発展により、研究分野は拡大専門化してきていて同一教室または講座においても、研究主題、講義内容が指導教官個々によって相異している。そのため教育（講座）単位でなく、教授、助教授および講師全員に教室図書主任を通して、Text-Book, Reference Book を毎年定期的に調査を行ない Reserve Book の拡大充実に努めている。この調査は要求資料をつかむだけでなく、学生に対する Information の活動をするうえの重要な参考資料としても利用する。Louis Round Wilson などは「大学図書館の集書は教授目的と照し合せてみて、その有効性について、定期的に再検討をする必要がある。これは学問のそれぞれの分野における図書館資料について調査すると同時に、学生並びに教授の利用についても調査するものである」と述べている。

カリキュラムは永久に変化しないものではなく、学問の発展に比例して更新される流動的性格のものである。そのため図書館は常にカリキュラムの内容を周知し、その進行方向にマッチしたリザーブブックの収集をすることは当然である。

教官にアンケートを求めると同様、利用する学生に対しても学生図書委員を介して要求文献の調査を行っている。今年度要求されたリザーブブックを執筆者の職種別に分けた結果は次のとおりである。ただしこれは和書についてである。

執筆者の職種	冊 数	比 率
大学, 付属機関	冊 366	% 46
(九大関係)	(175)	(48)
(他 大 学)	(191)	(52)
そ の 他	冊 15	% 4

この表が示す如く要求された図書の殆どが大学教授等によって執筆されたものである。

現職から退かれた名誉教授等により執筆になった図書は9冊しかなく、全て後任者が改稿したものである。このことは現在のカリキュラムに合致した図書が学生に理解し易く、医学の日進月歩により常に書き改められているからと言える。

和書のリザーブブックの利用の高度化を促進するには母体機関の現職教官の著作物を収集することである。次に他大学関係教官の著書を充実することにある。外国図書もこの傾向と大体同じことが言える。

II. 新刊書情報による要求

Academic Press のカード型, Livingston の掲示, 綴込み用紙型など各種のフォームの新刊書予告, 紹介案内状が各出版社, 販売店

* Shigehisa YAHIRO, 九大医学図書館

から相当量配達されてくる。また文献の中に綴込み式のものもある。これら全てを検討することは量が多く片手間には完全に行ない難いが、可能な限り素読し必要と思われる情報は次の方法をとっている。

〔学生〕 前記の如く学生の利用する、また利用させるべき図書は、定期的な調査に基づいて備付けた図書で、特に不便は与えていない。また予算的にも限られているため備付ける数にも自ら限度がある。しかし読書研究会や学習に必要とする文献の出版案内広告は一階新聞閲覧室に掲示、展示して通覧できるようにしている。この中に備付希望するものがあるときは「購入希望図書申込書」によって要求すればよい。ここに要求されてくる図書の利用率は多くなく、専門分野でなく関係領域部門の図書が大部分であるため、購入するには要求された図書の内容をできる限り関係教室に問合わせることになっている。

〔教官・研究者〕 専門的研究図書の情報はカタログを添付した「新刊案内書」を当該教室図書主任に回覧し、備付希望の有無の回答を受けている。

図書館の図書購入費の相当額は学生用関係図書を購入することが基本であり、またそれ位の子算しか配分されず、研究図書には教室経費で購入することになっているため、図書館で購入するものは各科に共通な図書に大体限られているので、只情報を流し教室で購入する参考にするのみに止まっている。

III. 図書館と教室の図書購入額^(雑誌費は含まず)

教室図書購入予算が図書館経費の約5倍である。何故このような現象が生じているかを考察すれば教室の建物が各々独立した位置にあること、また学生用中央図書室は設置されていたが、研究者が文献を共通に利用し得る場、即ち研究者のための図書館が学部創設後約50年間設置されなかったことに起因していると思う。そのため教室個々の方法によ

って購入せざるを得ないことになり、その習慣が現在まで継続しているのでなかろうか。これを改善する趣旨の一つとして図書館が設置になり、集中管理方式に徐々に切替えているが、地理的配置の問題などの事情が是正されない限り集中制の完全実施は困難である。しかし、不必要な図書の重複購入を回避するうえにも、文献の集中利用制によってより効果的図書館サービスを促進するためにも何らかの措置を講じなければならない。

	昭35年度	昭36年度	昭37年度
図 書 館	千円 862 (1.5)	千円 1,115 (1.8)	千円 98 (1.5)
教 室	千円 4,749 (8.5)	千円 5,137 (8.2)	千円 5,369 (8.5)

カッコは各年度における図書館：教室の比率

それまでの暫定措置として「各教室所蔵文献の共通利用規則」を作成し独占の使用を排除した。Douglas W Bryant は次のように述べている。「個々の部局図書館がどのような地理的配置になっていようとも、大学図書館全体が、全大学の学生、教授の利用に供されるべきものであることを強調することである。そのどの部分も、ある専門的グループの利用物のように考えられてはならない」と。

「図書館とすればまずかき集めることからスタートすることである。選択における初歩はリストを作成することである。最初は特に興味を持たれる主題すべての雑誌リストを作り、次に関係分野のものを所有する」と George Valerie は言っている。

共通利用をする場合の探索資料として所蔵文献リストを作成して、散在している文献の利用度を高めるとともに図書館の研究文献の不足を補うことにした。

IV. 定期刊行物

現在の受入種類数は 650 種（外国雑誌）であるが他館と比較して不充分である。例えば医学図書館協会の選定基準図書 84 種（現行医学雑誌所在目録，欧文篇 1962 年版）の中数点，また米国 New York 地区医学図書館の Core Journals 209 誌の中 54 誌，Harvard Univ. Medical Library の利用度の高い 133 誌の中 25 誌（沙藤氏調）および他館に借用，複写依頼の多いもの 12 種等がある。もっとも他館に所蔵しているから必ずしも同じものを揃えると言うのではなく，雑誌の重要性，利用性を知るためである。

利用者の希望資料の要求調査を定期的に実施しているが，これに希望されるものはある特定分野の専門誌が多い。

また創刊雑誌のアドヴァーチスメントは「New Journal 通知書」に添付し，添付不可能なのは編集者，論文提供機関等を転写して関係講座に送付し，希望の有無を問合わせる。この外資料の重要な情報源の Tools として，Review, Abstracts など各種の書評雑誌がある。

V. 購入文献の選択決定

教授，助教授および講師等によって構成する図書委員会において図書館で購入する文献をそれぞれの提出された資料を参考にして決定する。

リザーブブックは各分野の希望順位，即ち石井秀雄氏の「集採用均衡型：集書計画，保管，資料供用の 3 つの機能の機械的な平均を意味するのではなく，母体機関（利用者）の要請に長くマッチした均衡をとる」を基本原則にして購入する。

研究用に主として利用される逐次刊行物は，全タイトルを購入し，かつ利用度の高いのは数部揃えることが理想であるかも知れないが，限られた少ない経費では 1/4 程度しか備えることはできない。また 3,000 種以上の

刊行物を 1 大学で全タイトルを備えることは不可能である。福岡辰造氏は「雑誌，文献（特許を含む）は外部構造で収集するのではなく，内部構造の収集が真の意味の大学図書館の性格である」と言われているが，現状における収集は，共通の利用度の高い雑誌であっても 1 部しか備付けることはできない。

そのため利用者からの要求文献でも満足に購入することはできない。要求文献の内容をつかむ前に如何にしたら主要な文献を購入することができるか。これが今の課題と思う。

むすび

選択の技術的な方法を検討することも重要であるが，基本的重要な文献さえ充分購入できない状態にある図書館にとっては選択以前に解決すべき問題がある。

図書館は大学の教育，研究センターの機能を果たす機関であると一般に観念的には普及されているが，実行は現実化されていない。日本の大学図書館が欧米特にアメリカ図書館より 2, 30 年おけていると言われる。いろいろの原因があるだろうが，次のことが根本原因でないかと思う。

一つは教育制度にある。「日本の教育は戦後全面的にアメリカの教育制度を採用した。そのため高等学校以下の学校図書館は，アメリカ的教育制度のもとに非常な発達を示してきた。大学も新制大学として新しく出発したが，教室における教授法は以前として講義と教科書にたよる方式であり，Teaching With Books の教育方法はとっていない。そこに日本の大学図書館の発展を阻む大きな障壁がある」とアメリカ図書館研究調査団は報告している。

他の一つは図書館予算である。国立大学図書館改善要項第 2 条に「大学図書館の予算は大学総経費の少なくとも 10 パーセントを目標とする経常費と，臨時的な特殊経費をもつてする」と規定されているが，実際は 2 パー

セント弱程度が配当されるに過ぎない。利用者の要求資料を適格につかみ、収集文献の拡大充実をはかって、研究と調査、学習と教養の場としての図書館機能を遂行するには、現行の予算配分方法および教育制度を改正しなければならない段階にある。そのことによって図書館サービスの核心となる有効的な文献の収集および利用の促進化がなされ、大学図書館がますます発展するのである。

参 考 資 料

- 1) Wilson, L. R. & et al. (渡辺正亥・星野博改訳版)：大学の図書館。日本図書館協会，1959：p. 9～10
- 2) Bryant, D. W.：大学図書館の将来を語る。東大図書館，1963：p. 17
- 3) Ashworth, W. (ed.)：Handbook of Special Librarianship and Information Work, 2nd ed. Aslib, 1962：p. 40
- 4) 福岡辰造：薬学文献の収集について。薬学図書館，Vol. 6：66, 1961
- 5) 石井秀雄：専門図書館の現状と問題点。図書館雑誌，Vol. 58：92, 1964
- 6) アメリカ図書館研究調査団：アメリカの図書館。1960：p. 38

外国雑誌のご案内

New Journals from Pergamon Press

IMMUNOCHEMISTRY

an international journal——

Regional Editors: Dan H. Campbell, Pasadena, California;
Alain Bussard, Paris, France; Henri Isliker, Switzerland;
Fred Karush, Philadelphia, Pennsylvania

Quarterly 年間予約価 ￥18,900

EUROPEAN REVIEW OF ENDOCRINOLOGY

an international journal——

Published simultaneously in French and English by Gauthier-Villars Ed., and Pergamon Press Ltd. for the European Association of Endocrinology.

Editors: Prof. A. Soulaïrac, Paris, & M. Marois, Paris.

2 Nos. 年間予約価 ￥13,200

外国雑誌部